

知事記者会見の概要

日 時：令和4年5月11日(水) 10:00～10:54

場 所：502会議室

出席記者：16名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。
その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 「みんなの地球（あす）のためにチャレンジ！カーボンニュートラルや
まがた県民運動」について

代表質問

- (1) 大型連休の状況を踏まえたウィズコロナに向けた今後の対応方針につ
いて

フリー質問

- (1) 代表質問に関連して
- (2) 原油・原材料及び物価の高騰について
- (3) 新型コロナウイルス感染症への対応について
- (4) 4月29日～30日の降雪による農作物への影響について
- (5) 参議院議員選挙への対応について
- (6) やまがた紅王について
- (7) インバウンドの再開への対応について

< 幹事社：YBC・産経・毎日 >

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。五月晴れの大変良いお天気となりました。県内では、代かき、あるいは田植えが行われております。

さて、先日ですけれども、ブラジルで開催されました「夏季デフリンピック」(4年に一度、世界規模で行われる聴覚障がい者のための総合スポーツ競技大会)におきまして、本県出身の齋藤京香選手が見事金メダルを獲得されました。水泳の100m バタフライで、見事金メダル、そして200m 個人メドレーでも6位に入賞されました。快挙であります。

齋藤選手に心から、おめでとうを申し上げます。県民を代表して心からお祝いを申し上げたいと思います。

この度の齋藤選手のご活躍は、私たち県民に大きな感動と元気、活力を与えてくれました。コロナ禍の中での、明るいニュースとなったと思います。今後、ますますのご活躍を期待しております。

それから次に、地域連携 IC カード「cherica (チェリカ)」について申し上げます。

県で導入を支援しました、県内の路線バス等をキャッシュレスで利用できる地域連携 IC カード「cherica」につきまして、今週 5 月 14 日土曜日からサービスが開始されますので、お知らせをいたします。

山交バス株式会社、庄内交通株式会社の路線バスのほか、山形市や米沢市の市営バス、また、山形空港シャトルバスにおきまして、「cherica」のサービスが開始されることで、県民の方々はもちろん、県外から訪れる方のバス利用時における利便性向上が期待されます。同時に、新型コロナの感染防止策としても大変有効なものだと考えております。

「cherica」のメリットを申し上げますと、まず、小銭が不要となります。それから、バス利用の際にポイントが付与されます。ポイントがバスの運賃として利用できるサービスがありますので、大変お得であります。また、買い物などで「Suica」のキャッシュレス決済が利用できる大変便利なカードとなっております。「cherica」の導入は Yamagata 幸せデジタル化の大きな一歩となります。「cherica」は、山交バスや庄内交通のバスターミナルや営業所などで購入することができますので、ぜひ多くの方にご利用いただきたいと考えております。

なお、サービス開始日の 5 月 14 日には、山交ビル 1 階及びバスターミナルにおきまして、記念式典が開催されます。私も出席する予定です。

県としましては、「cherica」の普及・拡大により、地域公共交通の更なる利便性向上を図ってまいります。

それから、新型コロナについて申し上げます。

全国では、感染力が強いオミクロン株の BA.2 系統への置き換わりが進んだことや、大型連休の影響もありまして、新規感染者数が増加傾向の地域もあります。

本県では、新規感染者数が 4 月 29 日から 8 日間連続で前の週の同じ曜日を下回っていましたが、5 月 7 日からは 4 日間連続で上回っております。また、5 月 2 日に公表した直近のサンプリング調査では、オミクロン BA.2 系統の検出率が 85%となりました。置き換わりが相当進んでおりまして、連休明け以降、今後の感染状況が心配されるところであります。

現在のところ、重症患者は少なく、病床使用率も 10%台前半で推移しているなど、直ちに医療提供体制がひっ迫するおそれは少ないものと考えておりますが、感染防止対策と経済回復の両立を図るうえでは、少しでも新規感染者数を減らして、医療提供体制がひっ迫するリスクを下げることが引き続き重要であります。

県民の皆様には、ウィズコロナにおける基本的なエチケットとして、不織布マスクの着用、こまめな手洗い、消毒、三密を避ける、換気の励行など、引き続き基本的な感染防止対策の徹底をお願いいたします。

また、ワクチン接種が感染防止対策の要でありますので、希望される皆様には、できるだけ早く 3 回目の接種を受けていただくようお願いをいたします。

☆発表事項

知事

ここで発表が一つございます。カーボンニュートラルに向けた新たな県民運動について申し上げます。

県では、県民一人ひとりが、身近なところから、できることから、カーボンニュートラルに向けたアクションにチャレンジし、「豊かで美しい山形県」を県民総ぐるみで将来の世代に継承していく、新たな県民運動を開始いたします。

運動の名前は、『みんなの地球（あす）のためにチャレンジ！カーボンニュートラルやまがた県民運動』であります。地球の「Earth（アース）」と「明日（あす）」をかけております。

意識や道具を「かえる」、エネルギーを「つくる」、自分ごととして「かかわる」を重点的な取組み方針とし、5 月 31 日に、キックオフの県民運動推進大会を開催することといたしました。

県民運動を推進していく母体としましては、県と市町村、関係団体からなる「カーボンニュートラルやまがた県民運動推進会議」というのを新たに立ち上げ、広く県民を巻き込みながら、連携して取り組んでまいります。

具体的な事業としましては、ロゴマーク制作や標語・ポスターコンテストをはじめとした普及啓発、省エネ家電買い換えキャンペーンなど、機運醸成を図る取組みを展開してまいります。

近年、地球温暖化による気候変動の影響と考えられる異常気象や、これに伴う災害が頻発

し、気候変動対策は待ったなしの状況でありますので、県民の皆様お一人おひとりが自分ごととして捉えて、取り組むことが重要であります。

将来にわたって持続可能な山形県を創るため、みんなで脱炭素アクションを始めてまいりましょう。私からは以上です。

☆代表質問

記者

幹事社の YBC の新野と申します。5 月、6 月の幹事社となりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、新型コロナの感染拡大以降、行動制限のない初めての大型連休を終えました。民間調査によれば、全国の主要観光地などでは、去年と比べて大幅に人流が増えたという分析もなされています。取材を通じて、県内でも、去年に比べて大幅ににぎわったと感じているところではあります。そうした中、県内の新規感染者数は依然、3 桁が続き、高止まりの状況が続いています。一方で、行動制限のない今回の大型連休は、ウィズコロナの試金石となったのではないかと思います。知事は、ウィズコロナを前提にした社会経済活動の必要性について言及していますが、今回の大型連休を通じて、町の様子や人流など感じたこと、更に山形駅に設けました抗原検査の無料検査所等の効果と実績、そしてウィズコロナに向けた今後の方針について伺います。

知事

はい、今年の大規模連休につきましては、今、記者さんがおっしゃった通り、3 年ぶりに行動制限がありませんでした。全国的に、人出も多かったと聞いているところではあります。

県内でも、連休前半はあいにくの天気でありましたが、後半は天気にも恵まれて、コロナ禍前には及ばないものの、県内各地の観光地や温泉地が多くの人でにぎわい、以前の活気が少しずつ戻ってきていると、明るい兆しを感じたところでもあります。

また、感染防止対策を十分に徹底していただきながら、3 年ぶりとなる上杉まつりや徳良湖まつり、薬師公園の植木市などの様々なイベントも再開されました。会場を訪れる子ども達や若者、お年寄りの明るい笑顔を久しぶりに見ることができました。

しかしながら、大規模連休では、人流や人と人との接触機会が増加しましたので、今後、県内でも一気に感染が再拡大することなども懸念される場所でもあります。しばらくは感染状況を注視していきたいと考えております。

今年の大規模連休につきましては、県としまして、県境をまたぐ往来自粛等の行動制限は行わない一方で、無料 PCR 等検査の期間延長や、高齢者施設、保育施設、高等学校等への抗原定性検査キットの配布などによる「陽性者の早期発見」に取り組みました。そのほか、連休中に開催された成人式やモンテディオ山形のホームゲームにおける若者の「3 回目ワクチン接種の啓発活動」なども行いました。また、ホームページや SNS など各種媒体を活用し

た「基本的な感染防止対策徹底の呼びかけ」などにも取り組んだところであります。

また、4月29日には、山形空港と庄内空港におきまして、来県された希望者約200名に抗原定性検査キットを配布いたしました。そのほか、4月28日から5月8日まで、山形駅東西自由通路内に旅行や帰省などで電車を利用する無症状の希望者を対象とする無料の抗原定性検査所を設置し、計11日間で延べ493件の検査を実施いたしました。

大型連休を通して新規感染者数は100人台、200人台と高止まりをしておりますが、依然として、直近一週間の人口10万人あたりの新規感染者数は全国的にも低い水準、少ない方から3番目であったり、4番目であったりというそういうポジションにあります。重症患者も少なく、病床使用率は10%前半で推移するなど、感染防止対策として一定の成果があったものと捉えているところであります。県民の皆様のご協力に感謝申し上げます。

今後につきましては、今回の大型連休における経験も踏まえ、感染対策と経済回復の両立を図るため、3回目のワクチン接種で若年層の接種を促進するほか、病床使用率や重症病床使用率などの医療提供体制のひっ迫度合いを注視し、最大限の警戒をしながら、引き続き、可能な限り日常生活を取り戻す取組みを継続してまいりたいと考えております。

記者

はい、ありがとうございます。追加でもう1点なんですけれども、例えば薬師祭植木市ですとか、場所を限定して開催したわけなんですけれども、取材でお伺いするとですね、逆に制限をせずに例年通り道路を開放してというか、広い場所で開催したほうが密にならなかったのではないだろうか、という意見もあったんですが、今後のイベントの開催について、そういった制限を設けるべきか、例年通りオープンな形でやったほうがいいと感じているのか、知事のお考えはいかがでしょうか。

知事

はい、そうですね、今、記者さんがおっしゃった植木市ですけれども、実は初日に私も行って見ました。それで、入り口で検温がありまして、中に入りますと、皆さんマスクをしておられましたけれども、食べ物屋さんの屋台の前でですね、大変行列ができておりました。ですが、見ていてですね、エチケットと言いますか、マスクをきちんと皆さんなさっているので、ウィズコロナの状況だなというふうに感じたところです。私は、植木市のほうを、植木屋さん少ししか出てなかったんですけれども、そちらのほうに行って、対話をしたりですね、買いに来たお客さんとお話をしたりということをしましたけれども、皆さん、まずは3年ぶりに開催されたということで大変喜んでおられました。日曜日でしたので、若者も大変多く、本当に皆さん笑顔で、喜びというか、大変明るさを感じたなというところであります。

制限というお話でありますけれども、確かにコロナ前でありまして、広い道路ですね、かなり長い道路を幾つかにずら一っとお店なども並んで、その前を通り過ぎるというような状況でありますので、どちらがいいかというようなことは、即座に私はお答えすること

ができません。というのは、そういうふうになった場合、検温とかですね、そういったことはどういうふうにしてできるのかというようなこともね、検証したり考えたりしなきゃいけないのではないかと考えています。

ただ、今回の開催自体は非常に私は、よろしかったのではないかと考えておりますし、ほかにもね、結婚式ですとか、それからいろいろな会合もあったと聞いております。そういったことも含めて、これからどういうふうにしていくかということの検証と言いますか、知見とかね、そういったことを専門家の先生方にもお伺いしながら、私どもも検討していきたいというふうに考えております。

記者

ありがとうございます。幹事社からは以上です。

☆フリー質問

記者

NHKの金敷です。よろしくお願いします。

まず今の連休の件で伺わせていただきたいのですが、連休、だいぶ行動制限がないということで人出が戻ってきたというお話がありました。

県では、春旅とかキャンペーンもやられていたと思うのですが、こちらの効果はどう捉えているか、今時点の状況で結構です。伺わせてください。

知事

春旅などは、連休はちょっと該当しなかったということがありますので、春旅についてはちょっと申し訳ないですけれども、連休をはさんでですね、その前とその後ということで、ちょっと連休中のお答えはできないかなと思っています。ですが、そういったサービスがない中での効果と言いますか、連休の人流と言いますか、観光・宿泊といったところはですね、担当から聞いたところでは、コロナ前の平成30年との比較では、約7割ぐらいになっているということでもあります。コロナの状況であった昨年と比較すると、2.5倍くらいになっているというようなことでもありますので、去年・一昨年と比べますとちょっと雲泥の差があって、人流が戻ってきたのかなというふうに思っています。

その後どうなるかということは、ちょっとやはり今日から数日間、一週間くらいは、感染対策をしっかりとしながらやってきたわけなんですけれども、しっかりと注視をしながらですね、今後について検討していきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。すいません、失礼しました。ちゃんと把握しないまま質問して申し訳ございませんでした。

ごめんなさい、今のと関係するのですが、人流が戻ってきたと。経済面で今後どうしていきたいか。先ほど日常生活は両立して取り戻していきたいというお話がありました。経済の回復等のお考えを伺わせていただきたいのですが。

知事

そうですね、経済ということを考えますと、コロナの影響はもちろん受けておりますけれども、それ以外にもですね、境界はなかなかできませんけれども、原油高でありましたり、またウクライナ情勢の影響でありましたり、ちょっといろいろなことが重なって複合的になっているなあと感じておりますので、人流は戻ってきて少しずつ回復していったほうがいいのですが、そのほかのまた複雑な要因も出てきているというふうに認識をしておりますので、一足飛びに回復というふうになるかどうかはちょっとまだ何とも言えないのかなというふうに思っています。

一つ一つしっかりと取組みながら、経済回復ということに注力していきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。今にもちょっとまたすいません、関連しますが、原油高やウクライナ情勢、県内への影響というのは何か出てきているか聞いていますでしょうか。

知事

はい。まずそうですね、原油高でありますけれども、ロシアのウクライナ侵攻や円安などの影響により、原油や原材料価格、食料品を始めとした物価が高騰しており、県民生活はもとより本県の産業界全体に大きな影響を与えております。

県ではこうした状況を踏まえ、影響を受けた中小企業者に対する金融相談窓口を設置したり、低利融資による資金繰り支援を実施しております。そのほか、農林漁業者に対する省エネ機器・設備の導入支援や、無利子融資を基本とする経営安定資金の活用などを呼びかけているところです。

こうした中、先月政府におきまして、4月26日でしたけれども、『コロナ禍における「原油価格・物価高騰等総合緊急対策」』が決定、公表されたところです。

緊急対策には、原油価格高騰対策や低所得世帯等への支援のほか、地方の取組みを後押しするための「地方創生臨時交付金」の増額なども盛り込まれたところでもあります。

県としましては、政府の緊急対策の詳細について情報収集を行うとともに、副知事をトップに関係部長をメンバーとする「原油・物価高騰対策タスクフォース」を設置し、各業界からの声もお聞きしながら、必要な対策を検討しているところであります。

今後の原油価格や物価の動向を注視しつつ、政府の対策を踏まえた上で必要な対策を講じてまいりたいと考えております。

記者

すいません、山形新聞の田中です。

連休期間中の「今回は両立を目指す」ということに関連でお聞きしたいことがあります。知事も先ほどお話しになられたように、無料のPCR検査の延長であるとか、あと抗原検査キットの配布、あと山形駅での検査所の設置、そしてワクチンの3回目接種と。感染抑止には、この3つプラス基本的なマスク着用、換気等の基本的な対策と挙げられました。

無料PCRは今月末までというふうになっておりますけれども、今後を見据えた上でですね、両立を目指す上での検査体制の充実というのは不可欠になるかと思っておりますけれども、今後6月以降、夏も山形は、6月のさくらんぼに始まってですね、夏の観光シーズンにも入っていきますけれども、その検査体制というふうに、後はどういうふうに考えていくのか、この検証も必要でしょうけれども、そのあたりの知事の考えを教えてくださいと思います。

知事

はい。コロナの感染防止対策と経済回復ですね、経済活動を両立させていく上では、やはり検査体制というのは、私は欠かせないと思っています。ワクチン接種も促進するというのも欠かせないわけですが、基本的な感染防止対策、マスクですとか、それから検査体制は、私はやはり当分の間必要であるというふうに思っています。

ですから、全国知事会を通してでありますけれども、検査体制はずっと維持すべきだということを申し上げております。それからクラスターを発生させないためにもですね、各種施設に対しての検査キットの配布といったことなども、やはり不可欠であるというふうに私は考えております。

そういったことをしっかりやりながら、経済回復を目指していくべきではないかというふうに思っております。もちろん、経口薬・治療薬ですね。子どもも寝たきりの人もすぐ飲用できるような治療薬が開発されるということがやはり、一番の待たれる、期待するところでもありますけれども、そこまではやはり検査体制というのはしっかりと講じていくべきではないかというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。引き続きで、3年ぶりの行動制限のないゴールデンウィークでしたけれども、知事も植木市に行かれたというお話でしたけれども、ご覧になられて人々の意識ですね、コロナの感染状況に対する意識、3年目に入っているのもその辺の変化というものを直に肌を感じられたかと思っておりますけれども、知事としてはどのように、市民県民のコロナへの向き合い方の変化をどう受け止められておられますか。

知事

そうですね。植木市はお祭りのなところでありましたので、非常に開放的な雰囲気でありました。ですが、しっかりと皆さんマスクを着けるのは当たり前ということで、日常のエチケットにもうなっているなど。中学生や高校生も、若い人はどうかと思っていましたけれども、若い人方もきちんとマスクを着けて行列に並んでいたりですね、そういうことをしております。

基本的な感染防止対策というのが、もう当たり前のようになっている。これが新しい生活ということ、数年前に専門家がおっしゃったのですけれども、それが本当に日常になって定着しているなどというふうに感じました。

それから、私は結婚式にも連休中に出席したのですが、そういうところではですね、皆さん自分の席を立たないで、もちろんアクリル板がある中で、マスクもして、ですが席を立たないでちゃんとしておられた方がほとんどでしたので、やはり警戒感もしっかりとお持ちの上で、そういう式もやっておられるなどということを実感いたしました。

場面に応じて人々の雰囲気は変わるんですけれども、マスク生活ということが定着しているということは共通しておりましたので、こういった日常のエチケットとしてね、マスクをしながら様々な以前の生活に近い行動ができていくのではないかなというふうに感じたところがあります。

記者

ありがとうございます。そういった意識の下での検査であったり、経口薬であったり、ワクチンであったりというものが、両立の上で欠かせないということなのかと受け止めさせていただきました。

もう1点。連休中様々なイベントがある中で、中学校高校の地区予選なんかも、スポーツ、運動ですね、始まっております。競技団体によって、もしくは組織によってですね、感染抑止の有無、対応ができるかどうかによって、無観客であったりとか有観客であったりという対応も分かれております。

これは例えば、プロスポーツと単純に比較はできないのですが、モンテディオ山形であればフルの有観客で対応できるとか。という一方、やっぱり学校の部活動、なかなかクラスター対策もあって、日常回復が遅れているのではないかなと個人的なちょっと懸念というか、考えを持っております。こうした日常を取り戻す上です、今後スポーツ大会は、県大会と本格化してくるわけですが、何か、教育委員会の案件ですので必ずしも知事部局とはいきませんが、知事としては何か教育委員会に検討を求めたいことであるとかですね、そういった学校の日常を回復する上で何か連携できることとか、もし知事に何かお考えとかご意見とかありましたら、この機会に拝聴したいと思います。

知事

はい。そうですね、学校生活というのは本当に生徒さんたちにとって大切なものでありますし、学習と部活ということがありますので、学習の場面ではそんなに、マスクを着けて活動していれば普通というか、コロナ以前のような授業ができるのではないかと思いますけれども、部活になりますと、そうですねやはり、いろいろ心配なところもあるのかなと思います。県外との交流というところで何回もですね、今回第6波になってからは、そんなにないと思いますけれども、県外との交流でやはり感染が持ち込まれてきたという経験が何回か、かなりの回数ありますので、そこはやっぱり注意してもらいたいなど。

検査というものをやはり、出かける前、そして帰ってきてすぐというようなことで、しっかりと検査をし、早期発見につなげて感染拡大を防ぐというようなことは基本であるというふうにも思っております。

これはビジネスの世界で、もう既にやっておりますので、それと同じだと思います。あと日常に近い部活もですね、できる限りやはり、地区大会も含めて日常に近いところに持っていくにはどうしたらいいかというのは、私個人でどう言うよりは、教育委員会の皆さんのお話をお聞きしながら、そして専門家のお話もお聞きしながら、両方をですね、つないでできる限り日常に近い活動ができるようにしていければというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。私から最後にもう1点だけ。今年度から発足したアドバイザー（コロナ克服・経済再生アドバイザー）、知事が各界の代表者の方に委嘱されてスタートしているかと思っております。これまでの医療専門家6人のほかに、一部重複の方もいますが、ということですが、この連休期間中、（感染対策と経済活動との）両立を目指し、今後に向けて、ウィズコロナに向けての取組みの課題と成果ですね、このアドバイザーの方々からはどのような意見・助言を得て、それを今後の施策に反映させていかれるということになるのか、そのアドバイザーの方々の活用も含めて教えていただければと思います。

知事

はい。そうですね、これまでの専門家会議と言いますか、それはそれで私は一定程度必要であるというふうに思っています。ただ、専門家会議だけですと、どうしても最悪のシチュエーションと言いますか、やはりブレーキがかかるというのが大変多いです。当然ながらやはり、医療現場を守ってくださっている方々というのはやはり、そうあるべきというふうに思っておりますけれども、アドバイザー制度で、経済界プラス医療専門家の方ということでお願いをしております。

これはやはり、ウィズコロナにおける感染対策と経済活動との両立、これをいかに進め

るかという、要するに進めるためのアドバイスをいただくという視点に立っておりますので、ブレーキだけにはならないというふうに思います。むしろ、こういうふうにながらこういうふうにしたほうが良いというような前向きなアドバイスを私としては期待をしておりますので、そういった方向でアドバイスをいただいて、経済・社会・教育活動がですね、進むようなことを私としては念頭に置いているところです。

記者

共同通信、阪口です。お世話になります。

序盤に連休の気候について言及があったと思いますけれども、連休序盤、雪が降るなどということもあってですね、農業被害、去年のをちょっと思い出すというか、悪夢を思い出すようなところもあったかなと思います。会議を県としても開かれて、アスパラガスの被害なんかもヒアリングされたと思いますけれども、改めて今回の寒波ですね、どのように受け止めていらっしゃるか伺えますでしょうか。

知事

はい。4月29日の夜から30日の朝にかけて、村山地域や最上地域で降雪がありました。雪が降りました。最大積雪深ですが、山形市で3cm、尾花沢市で1cm、新庄市で3cm、最上町では5cmとなりました。新庄市および最上町で栽培されているアスパラガス、これにつままして収穫前の茎葉に損傷などの被害が確認されまして、5月9日現在、2,100万円の被害額となっております。被害を受けたアスパラガスは、この茎葉の切り捨てなどが行われました。出荷は1週間ほど遅れましたけれども、次もどンドンと出てまいりますので、5月6日から開始されて今後本格化していくと聞いております。

その他の農作物ですけれども、北村山地域の路地すいか圃場では積雪があったんですけども、被覆しているトンネルの損傷などはなく、被害は確認されておりません。

それからさくらんぼですけれども、県内の4月30日の最低気温は低いところでも0℃前後で止まりましたので、さくらんぼへの被害は確認されておりません。さくらんぼはこれから果実が肥大するステージに入りますので、引き続き注視してまいりたいと考えております。

昨年、確か6月に入ってから雹やあられが降ったんですよね。だからまだまだ油断できないなというところでもあります。

なお、例年通り5月下旬にさくらんぼ作柄調査の結果を公表する予定でございます。

記者

ありがとうございます。もう1点、連休中の話題ということで、8日の日に立憲民主党さんの党大会に出られたと思います。舟山さんとも並ばれてですね、舟山さんの事務所開きにも祝電のほうですかね、送られたのではないかと思いますけれども、まだ構図は固まっていない状況ですけれども、参院選について態度をどのようにされるか、現時点で結構なので何か

決まっていることがあれば伺えますでしょうか。

知事

いえいえ、まだ何も決まっておりません。正直申し上げまして。構図もね、確定していないということでもありますし、私にとってはまだ先のことといたしますか、応援して下さった方ということでため書きですとか祝電は差し上げたところでもありますけれども、選挙でどういう対応をするかということはまだ、まったく今のところ現時点では考えていないところであります。まず公務に邁進したいというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。

記者

NHKの桐山と申します。よろしくお願いします。

4回目のワクチンについてお伺いしたいことがございまして、まだ3回目の接種も進んでいるところではありますが、政府の方で4月の末にですね、接種の対象を60歳以上の人とか基礎疾患のある人に限定した上で全国では5月の末から行っていきたいという方針を厚生労働省は示されています。

現時点で山形県として何かスケジュールであるとか、ワクチンの確保であるとかですね、スケジュール的なものが何か決まっているようでしたら、あるいは接種の目途とかが具体的に決まっているようでしたら教えていただければと思うのですが。

知事

はい。4回目のワクチン接種ということでもあります。4月27日に開催された厚生労働省の「予防接種・ワクチン分科会」におきまして、4回目のワクチン接種を実施することが了承されました。接種対象者は3回目の接種完了から5か月以上経過している60歳以上の方と、18歳以上60歳未満の方のうち基礎疾患を有する方とされたところであります。

今後、厚生労働省からは接種対象者や接種券の配布方法など詳しい内容が示されるものと考えております。

県内市町村では、5月下旬から6月以降に始まる4回目接種に向けてシステムの修正や基礎疾患を有する方への接種券発券の方法、また個別接種の医療機関の確保や集団接種を行う場合の実施方法など、様々な検討を行い諸準備を進めているとお聞きをしているところであります。

県では、引続きワクチン接種に関する総合調整の役割を担いますので、市町村からの問い合わせや相談に丁寧に対応してまいりますとともに、政府からの接種に関する情報提供やワクチンの配分など適時適切に行って、4回目接種が円滑に進むよう支援をしてまいりたいと

いうふうに考えております。

記者

今のところ、国からその4回目ワクチンの配分計画とかが県に入ってきてるという段階ではないということですかね。

知事

はい。

記者

今後ですね。

知事

はい。

記者

はい、わかりました。ありがとうございます。

記者

さくらんぼテレビの高橋です。

プレデビューが迫っているさくらんぼの新品種「やまがた紅王」についてお聞きします。

年度初めの会見であったり、そういった場でたびたび期待の声というのは、知事、口にされていらっしゃると思いますが、プレデビューが迫っている今の段階で期待の声というのを改めて教えてください。併せて、生育状況がどういった状況にあるのか教えていただければと思います。

知事

はい。「やまがた紅王」という県で開発した500円玉よりも大きい新品種であります。期待の大型新人としてですね、多くの皆さんの心をつかむようにというふうに期待をしているところであります。

さくらんぼといえばやはり山形でありますし、山形といえばさくらんぼ、山形の代表選手、スター選手だというふうに思っています。

中でもその「やまがた紅王」というのは大変粒が大きい、そして果肉がしっかりしているというようなことで、食べ応えがあります。これはやはり多くの皆さんに期待されているというふうに思っています。さくらんぼ農家の皆さんも期待をしておりますし、日本全国です、さくらんぼは愛されておりますので、大きな期待がかかっているのではないかなとい

うふうに思っています。

今、コロナの状況なので、なかなか輸出というところも大変ですけども、関西まで販売するとか海外へ輸出するとかそういう時にもですね、紅秀峰とこの紅王というのはわりあい日持ちがするものですから、可能性は非常に大きいのではないかというふうに思っています。いろいろな面で大変期待をされるところであります。

今、生育状況を聞かれましたけれども、実は霜が降りるか雪が降るかというようなこの時期に、紅王はどうなっているのかと非常に心配を私にはしておりましたけれども、幸いにも被害は確認されていないということでもありますし、あと、紅王を生育している農家さんのお話を聞きますと、早く花が咲いたと言っていました。わりと早く花が咲いて、だからそのあとが、霜が降ったりしないか、雹やあられ、これが心配なわけですね。早く花が咲いて早く結実するとですね、そういうところが心配だなということですが、今結実したのかどうかというのは担当部に聞かないと、そこまではちょっと私もまだわからないところでございます。

記者

ありがとうございます。プレデビューのタイミングにしっかりと出荷できるように、生産者の方に呼び掛けることなどあれば最後をお願いします。

知事

そうですね、いよいよ期待の大型新人、やまがた紅王がプレデビューする年であります。あと1か月ちょっとで市場に出回るということになりますので、ぜひ生産者の皆様には最後の最後まで気を抜くことなくしっかりと育て上げて市場に出していただければというふうに思っています。

消費者みんなでやはり大きな期待を持ってお待ちしておりますので、ぜひこれからの気候変動と言いますか、いろんな気象も乗り越えてですね、育て上げていただきたいというふうに思っております。みんなで期待をしております。

記者

ごめんなさい、2回目の質問になって恐縮です。2つ聞きそびれがあったので、すいません、確認させてください。

先ほど4回目のワクチンの件、追加で聞いていましたけど、その前に3回目と、あと小児ワクチンですね、12歳未満のワクチンはどのぐらい進んでいるかもし把握があったら教えていただきたいのと、4月の時点ではまだ進んでいないという話が出ていたので、今後これを促進していくためにどうしていきたいかというお考えをまず伺っていただきたいのですが。

知事

はい。3回目のワクチン接種であります。直近の5月8日の速報値は、県内の全年代の合計が60.6%です。これは全国平均が54.2%でありますので、それを上回っております。進捗が図られております。特に60代以上の世代では約8割から9割以上まで進み、40代も5割を超えております。

一方、若い世代のうち、20代は37.6%、30代は41.3%という状況であります。いずれも5割までには達していないんですけれども、4月1日時点と比べますと、20代で15.2ポイント、30代で18.2ポイント増加をしております。2回目接種以降6か月に達した方が多かったことなどから、20代・30代の伸びが大きくなっているところです。

若い世代の感染防止対策が、ひいては各世代の感染防止にもつながることから、今後も引き続きSNS等で啓発を行うなど、さらなる若年層のワクチン接種の促進に向けて、正しい情報による接種の呼び掛けを行ってまいります。

小児接種についてのデータは私のところに、今ここにはありませんので、あとで担当者から聞いていただければと思います。

記者

10代についても今は手元にはないですか。3回目接種の。

知事

10代、そうなんですね。はい。20代・30代というようなことで。はい。

記者

わかりました。その辺のデータはあとで担当の方に確認させていただきます。

知事

はい、お願いします。

記者

ごめんなさい、もう1点なんですけど、昨日なんですけど、東京都の医師会長さんがこれから夏になるので熱中症対策という意味も含まれていると思いますが、屋外でのマスクはそろそろ考えてもいい時期じゃないかというお話をされておりました。

もちろん室内とか密になるところは着用というのは必要性はまだ感じているということだったんですけど、屋外では見直してもいいというお考えを示されていましたが、知事はそのあたりはどのようにお考えになるか伺わせていただきたいのですが。

知事

はい。今のその東京都の（医師会長の発言）ということは、私は初めてお聞きしました。それで私の考えというようなことでは、そうですね、正直申し上げて山形の夏というのは湿度が高いからものすごい暑さになるんですよねということはあると思います。冷房というようなこともしっかり駆使しながらということになるかと、屋内ではね、そういうことがあるかと思いますが、戸外はやはり山形県は密になるところはあんまりございませんし、イベントとかはまた別なんですけれども、散歩でありましたりね、そういったところではね、これから密にならないようなところではそういったことも考えていけるのかどうか、せっかくアドバイザー制度を作っておりますので、感染症の専門家にお聞きをしてみたい。そしてそういったことを県民の皆さんにもお知らせをしていきたいというふうに思います。

記者

すみません、読売新聞の藤本と申します。

先ほど大型連休が試金石となってそれなりに人が戻ってきていらっしゃるというお話をされていたと思うんですけれども、連休期間中、政府のほうで新たに外国人観光客の受入れの緩和というお話が少し出てきたと思います。まだちょっと1歩も2歩も先の話かもわからないんですけれども、そういった外国人観光客、山形県は大きな観光の受け皿になっていると思いますけれども、そういった方たちをこれから受け入れていく上で対策、心配することであったりとか、あとは期待感ということを知事のほうからお話いただければと思います。

知事

はい。インバウンドということだと思いますけれども、外国人の観光客の方はコロナ前はたくさんいらしてございましてね、本当にどんどんと増えてピークになったところでコロナでまったくいっしょらなくなったという経過がありました。観光業界ではね、早くインバウンドを再開してほしいという声を多く聞いているところです。

これに関しては政府でないとやはりしっかりと進めていけないところでありますので、政府の動向をしっかりと注視していきたいというふうに思っています。

私としては、やはりその世界の国々が一律と言えるかどうかわかりませんが、感染状況というようなことも踏まえながら政府が判断していくことになるんだろうというふうに思っています。

もし規制緩和ということになればね、本県の場合ですと、各宿泊施設でありましたり、立寄り施設でありましたり、感染防止対策をしっかりとしておりますので、観光客の皆さんにもエチケットを守っていただきながら楽しんでいただけるというふうに思います。

早く再開していただければよろしいのではないかとというふうに私自身は思っておりますけれども、政府でやはり各国のいろんな感染状況などもお考えになりながら判断していかれるんだろうと思っています。